

—ウエンピウカ(悪い・小石川原)—

前回までの三回は、「オチンカバ(Ochin-kaba 熊皮を乾す処) ↓永山一号川」について述べた。しかし、この由緒ある名称も、「石狩川左七一—一号幹線」という名称の排水溝になってしまったことを述べた。ただし、宗谷本線と石北本線のこの川の橋梁名が、「熊皮川」として往時の地名由来が残ったのが救いであった。

さて、今回のアイヌ語地名は、オチンカバの石狩川左岸の上流の「ウエンピウカ(wen-piuka 悪い・小石川原)」と理解したものとされる。オチンカバと同じく、石狩川の左岸にあった川で、往時は人家があったが、松浦武四郎が訪ねた安政四年には、人家は一軒もなかったと記録した。

断章 旭川のアイヌ語 地名研究

(162)

高橋 基

カ」である。安政四年(一八五七年)、松浦武四郎は、『再富石狩日誌』で、次のように述べている。

ウエンキウバ—恐らくはウエンピウカなるに今訛りてウエンキウバと云ふ也。右の方相応の川なり。此の処にも昔は人家有し由なるが、今は一軒もなし。

松浦武四郎は、案内のピヤットキなどから、「この川は、ウエンキウバです」と教えられたが、意味不明な点もあり、「ウエンピウカ(wen-piuka 悪い・小石川原)」と理解したものとされる。オチンカバと同じく、石狩川の左岸にあった川で、往時は人家があったが、松浦武四郎が訪ねた安政四年には、人家は一軒もなかったと記録した。

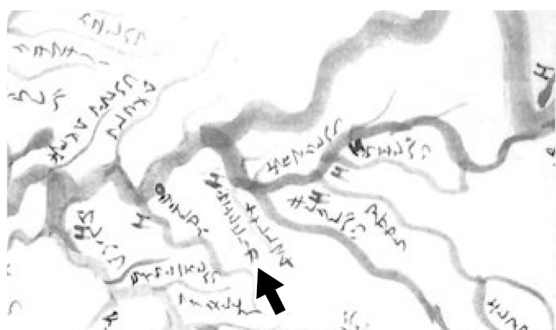
図一で、オチンカバ周辺図である。松浦武四郎は、このような地図を大成して、安政六年(一八五九年)に、有名な『東西蝦夷山川地理取調図』を完成させたのである。

ところが、掲載地図の今回の「ウエンピウカ」の右側に「ケナシトマム」がある。この「ケナシトマム」が、『東西蝦夷山川地理取調図』には、掲載されていないのである。次回の「地名の移動」で触れるので、是非覚えておいていただきたい。

さて、明治二十四年に、永田方正は、『北海道蝦夷語地名解』で、「ウエンピウカ」について、次のように地名解をした。

ウエンピウカ(wen-piuka)

—悪シキ河跡。石狩川の河跡ナリ。古ヘアイヌノ村アリシガ、癩瘡ノタ



松浦武四郎「川々取調図」

メニ死ス。故ニ「ウエン」ト云フ。

永田方正が聞いた「ウエン(wen) (悪い)」の理由が、「癩瘡で人々が死んだ」とによると書いた。

ところが、昭和三十五年になって、知里真志保は、「上川郡アイヌ語地名解」

で、「ウエン」の理由を次のように書いている。

ウエンピウカ(wen-piuka 悪い・小石川原) — 昔、若者がこゝへ鮭を捕りに行って熊に殺された。そこで不吉な川原という名がついたのだという。

知里真志保が聞いた「wen (悪い)」の理由は、「鮭を捕りに行った若者が、熊に殺された」からだという。

が、熊に殺された」という。知里真志保が聞いた伝承は、荒井源治郎翁など、近文コタンの古老からの伝承であった。伝承者によって、地名伝承は、このように大きく変化するという代表的な例である。

アイヌ語地名研究会幹事 ※毎月第1週号に掲載します